

令和 6 年 6 月 30 日現在

機関番号：47201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00561

研究課題名(和文)現代韓国語敬語における使用原則の変化に関する語用論的調査と考察

研究課題名(英文) Pragmatic Research on and Considerations of Changes in the Usage Principles of Modern Korean Honorifics

研究代表者

丁 仁京 (JUNG, INKYUNG)

佐賀女子短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：50759264

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は韓国語の敬語使用の変化を敬語の使用原則に生じている変化として捉え、尊敬接辞-si-の対者敬語化および意思表示の対上位者の行為指示表現化の現象について、聞き手の違いによる容認度の調査を通して語用論的諸要因を明らかにした。研究の結果、新奇な敬語と言える事物尊称-si-の使用が、対面的な話し手-聞き手関係における「聞き手意識」に影響されている可能性が示唆された。また、新しい二人称的行為指示表現-silgeyoはサービス業的文脈において、顧客的立場の相手に行為をさせる際のフェイス侵害に対する一種の補償として、相手の意思で行為が行われるかのように敬語付きの丁寧な意思形で表されることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ソウル・京畿道在住の韓国人母語話者を対象に、現代韓国語における敬語の使用の変化を敬語の使用原則の変化として捉え、聞き手の違いによる容認度の調査を通して、語用論的要因を明らかにした。近年の敬語やポライトネス使用においては、聞き手の受容度に焦点が当てられつつある。一方で、韓国語の新しい敬語使用については、それぞれに異なる次元の異なる機序によるものと理解されており、現代韓国語の敬語使用の変化の全体像を探った本研究は意義深いものと言える。本研究の成果は、現代社会と言語の関係を理解する上で重要であり、韓国語学のみならず、対照言語学、社会言語学、語用論研究に対しても大いに資するものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study examines changes in the use of honorifics in the Korean language as reflecting a shift in honorific principles. Specifically, it investigates the phenomenon of the respectful suffix -si- evolving into a second-person honorific and the transformation of intent expressions into directive expressions toward higher-ranking individuals. Through a survey of listeners' assessments of the acceptability of these changes, various pragmatic factors were identified. The study results suggest that the adoption of the novel honorific form, referred to as the inanimate honorific -si-, may be influenced by "hearer consciousness" in face-to-face speaker-listener interactions. Additionally, use of the new second-person directive expression -silgeyo appears to serve as a compensatory strategy to mitigate face-threatening acts in service-oriented contexts by presenting actions as if performed with the addressee's intention in a polite manner.

研究分野：言語学

キーワード：韓国語 語用論 敬語変化 尊敬接辞-si-の対者敬語化 行為指示表現-silgeyo 容認度調査

1. 研究開始当初の背景

現代韓国語では敬語使用に大きな変化が観察される。具体的な現象として、第1に、素材敬語である尊敬接辞 *-si* の対者敬語化がある。それは、①「*americano nao-syeo-ss-seubnida*. (直訳: アメリカーノ(が)出られました)」のようなモノに対する尊敬語(主体敬語)の使用、および②「*jeohui maejang-eun seil an ha-se-yo*. (直訳: 私どもの売り場はセールなさいません)」など自敬敬語のように見える自分たちに対する敬語使用である(丁, 2013, 2016; jung, 2019)。第2に、意思表示の対上位者の行為指示表現化がある。③「*i jjog-eulo anj-eusi-lgeyo*. (直訳: こちらにお座りになられます; (意識)お座りいただきます)」のような、上位者の聞き手に対する行為指示に一人称意思表示を転用するものである(丁, 2019)。第3に、韓国語の伝統的特徴である絶対敬語の揺らぎである¹。従来の研究では、これらの現象はそれぞれ異なる次元の異なる機序によるものと了解されるにとどまり、全体像を探る包括的な研究が行われていない。最近の現代韓国語における新しい敬語使用(2000年以降)に対する実態調査は、接客・サービス業界の従事者(話し手)に限定されている。しかし、申請者のこれまでの研究に基づくと、現代韓国語の敬語使用においては、敬語に対する考え方が「聞き手意識」に寄りつつあると推察される。さらに、近年の敬語やポライトネスの使用においては、聞き手がどのように受け止めているのかに焦点が当てられているが、韓国語の敬語使用の変化が実際にどの程度受け入れられているかについては、これまで十分に検証されていない。そこで、本研究では、これらの敬語使用の変化を敬語の使用原則に生じている変化として捉え、「聞き手意識」の変化の表れとの仮説に基づいて調査と考察を行った。

2. 研究の目的

本研究は、現代韓国語の敬語使用の変化を、敬語の使用原則に生じている変化として捉え、聞き手の違いによる容認度を調査することを通して、語用論的諸要因を明らかにすることを目的とする。具体的には、次の2つの現象に着目する。素材敬語である尊敬接辞 *-si* の対者敬語化と意思表示の対上位者の行為指示表現化である。これらの敬語使用の変化について、聞き手の違いによる容認度を包括的(男女別、世代別)に調査し、語用論的観点からの考察を行う。

3. 研究の方法

(1) 尊敬接辞 *-si* の対者敬語化

接客・サービス業界で使用されている各種敬語表現のデータを収集、分類、選定する。調査協力者は韓国語母語話者20代～60代以上の男女各20名の合計200名。調査協力者の特性は5世代、被験者の性別、サービス業への従事・非従事、職業(6種類)の4つである。質問は、モノ敬語の7場面の表現について、店員の男女別、述部の待遇形式が3タイプで、計42表現を作成した。オンラインで調査対象の表現を含んだイラストを1問ずつランダムに提示し、1の「とても違和感がある」から5の「まったく違和感がない」のリッカート尺度で、調査協力者に回答を求めた。結果は、決定木分析で容認度を9つの変数で予測した。変数は、言語外的要因として、回答者属性の性別、世代、職業(6種類)、サービス業への従事・非従事、場面的特性として、店員の性別、表現的特性として、3タイプの待遇形式(格式的丁寧度の高い形 *habnida*、尊敬接辞 *-si* を含んだ *hasibnida* および *haseyo*)、文法的な正しさである「統語度」、聞き手の文脈的な関与を示す「関与度」、提示される文タイプである。なお、自敬敬語については、6場面(6種類)の計36の表現を選定した。

¹ 研究開始当初は、第3の現象である絶対敬語の揺らぎについても、韓国語の敬語変化の表れとして調査対象に含めて分析を行う予定であったが、最終的には尊敬接辞 *-si* の新しい敬語使用にのみ焦点を当てて考察を行った。

(2) 意思表示の対上位者の行為指示表現化

事前調査として、文字化されたコーパス資料(世宗コーパスと延世コーパス)とシナリオ資料(1990年から2022年までの20作品)を検索した結果、コーパス資料では-silgeyoの用例は見つからなかった。シナリオ資料では、数は少ないものの2つのドラマから11個の用例を抽出することができた。容認度の調査では、実例の場面から-silgeyoを使用した各種表現を収集し、15場面(15種類)の表現を選定した。調査協力者は韓国語母語話者20代~60代以上の男女合わせて70名を対象に、-silgeyoの容認度を質問紙によって調査した。調査協力者の特性は、5世代、被験者の性別、サービス業への従事・非従事、職業(6種類)の4つである。質問では15場面の2つの行為指示表現(従来のへヨ体敬語形-seyo[~なさいます・ませ]と新しい-silgeyo[~なさいますね])の合計30問をオンラインで1問ずつランダムに提示して、1の「とても違和感がある」から5の「まったく違和感がない」のリッカート尺度で容認度を尋ねた。

5. 研究成果

(1) 尊敬接辞-si-の対者敬語化: ①モノ敬語

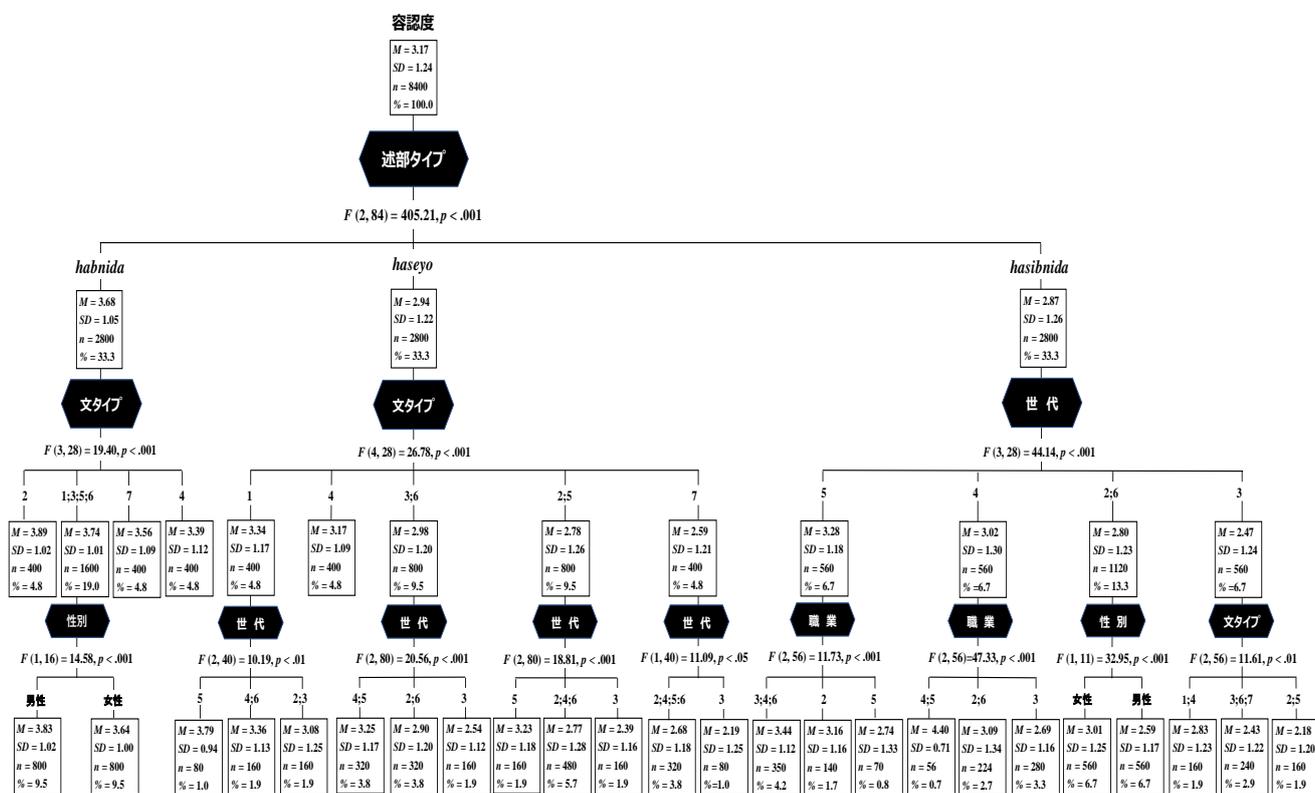


図1 韓国語の新奇なモノ敬語の容認性に関する決定木分析

現代韓国語の新奇なモノ敬語「事物尊称」の容認性に関する決定木分析の結果、「述部タイプ」が最も強い影響要因[F(2, 84)=405.21, $p<.001$]となった(容認度の高さ順に、*habnida*($M=3.68$, $SD=1.05$) > *haseyo*($M=2.94$, $SD=1.22$) > *hasibnida*($M=2.87$, $SD=1.26$))。尊敬接辞-si-を含んだ事物尊称の形が、標準的な表現より少し低い容認度で現れた。次に強い影響要因は待遇形式によって分かれた。*haseyo*体では、「文タイプ」が現れ($F(4, 28)=26.78$, $p<.001$)、従来のな所有敬語文(場面1)が最も高く($M=3.34$, $SD=1.17$)、文法的な問題の大きい文(場面7)が最低となった($M=2.59$, $SD=1.21$)。他の表現はこれらの中に入った。容認度が高めに出了た文タイプと低めに出了た文タイプを検討すると、高めに出了たタイプ(場面4, 3, 6)では主題の助詞-neun/eun(日本語の「ハ」相当)が

使われていたのに対し、低めに出たタイプ(場面2, 5)では主部の助詞が-ga/i(日本語の「ガ」相当)であった。格表示によって統語構造が意識されやすいと容認度が下がるのに対し、主題化され格表示が中和されていると述部との呼応が緩やかになり、容認性が上がるものと推察された。3番目の影響要因は世代であった。一方、もう1つの待遇形式であるhasibnida体では、「世代」の影響が2番目に強かった($F(3, 28)=44.14, p<.001$)。50代の容認性が最も高く($M=3.28, SD=1.18$)、次いで40代($M=3.02, SD=1.30$)、反対に最も低かったのが30代であった($M=2.47, SD=1.24$)。3番目の影響要因は、職業、性別、文タイプが異なる世代で見られた。なお、これら以外の4つの変数は、3層目までに現れなかった。

以上をまとめると、まず、モノ敬語がある程度受け入れられていることがわかった。容認度への影響要因としては、述部における待遇形式のほか、文タイプと世代が強く表れており、統語的な意識の強さや中年層といった世代において高く出る傾向があることがわかった。本研究の結果は、新奇な敬語と言える事物尊称の使用が、対面的な話し手—聞き手関係における「聞き手意識」(滝浦, 2020)に影響されている可能性を示唆している。

(1) 尊敬接辞-si-の対者敬語化: ② 自敬敬語

新奇な自敬敬語の hasibnida 体と haseyo 体において、文タイプによる容認度の差は認められず、相手=客の関与度が影響しているとの解釈は支持されなかったが、自敬敬語の容認度は従来からの正用法である habnida よりは有意に低いものの、5段階評価の中央値である3に近い容認度が得られており、韓国語の新しい敬語用法として一定程度受け入れられていることが明らかになった。このことは、現代韓国語の敬語に、「聞き手」に重点を置く観点からの変化が生じていることを示唆している。また、容認度への影響要因としては、当の-si-の有無に加え、世代、さらにはサービス業への従事・非従事が抽出された。世代では、40代・50代の世代が自敬敬語に対して寛容であるのに対し、30代が一番厳しく評価しているという結果となった。

話し手自身を高める自敬敬語の使用は、韓国語の敬語使用の規範からは明らかに逸脱した用法である。しかし、本研究の分析結果は、話し手が聞き手を常に高める必要があり、聞き手に対して最大限に敬意を払わなければならないという接客・サービス業界という特定の社会的な環境の下では、積極的な言語戦略として解釈される可能性を示唆するものと言えよう。

(2) 意思表示の対上位者的行為指示表現化

従来の-seyoと新しい-silgeyoの2つの行為指示表現についての70名の容認度を対応のあるサンプルのt検定で比較した。その結果、15場面のうち11場面において従来の-seyoのほうがsilgeyoよりも有意に容認度が高かったが、4場面では両者に有意な違いはなかった。さらに、-seyoとsilgeyoの2つの行為指示表現の70名の平均から階層的クラスタ分析を行った。さらに、15場面の平均を2つの行為指示表現でプロットして、図3のような散布図を描いた。そこに、15場面のt検定の結果を加えて、全体の結果が把握できるようにした。

図2の結果を見ると、silgeyoの容認度の違いによって、クラスタIからIVの4つに分かれた。特に、横軸の値が最も高い群であるクラスタI(場面12, 11, 8, 13)は新しい行為指示表現として受け入れられていることがわかる。このクラスタでは、共通に、①「営業的(業務上の)関係」、②「サービス提供の文脈」、③「(擬似的)下の立場から上への関係」、④「(日常的・反復的)動作指示から動作実行」であることの4つの特徴を有しており、検討のための観点とした上記の4点が、結果的に容認度が高くなる条件でもあることがわかった。また、中容認度群と言えるクラスタII(場面2, 3, 10, 9, 4)を見ると、4条件に満たしていないものがあるか、または動作というより無為の状態に近い指示(場面4)では、容認度が下がる要因であると思われる。他方で、低容認度群と言えるクラスタIII

(場面 7, 6, 5, 15, 14)を見ると、4条件に満たしていないものがあるか、またはその場限りの行為指示であることがわかり、それらが容認度を下げる要因であると見ることができる。なお、4条件を満たしていても、定型化した形式的なあいさつ表現(場面 6)や聞き手の利益にならない禁止表現を含んだ行為指示(場面 15, 14)では容認度が低く出ている。なお、クラスタIV(場面 11)については、*-seyo* でも*-silgeyo* でも容認度が低かった。有意でない4つの場面(場面 8, 13, 4, 1)については、

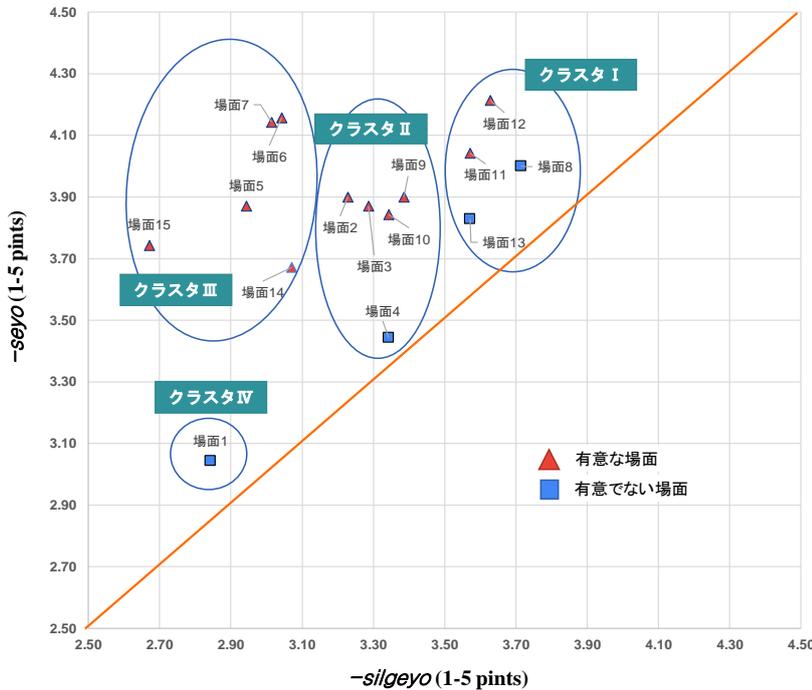


図2 -seyoと-silgeyoの分布とt検定の結果

いずれも図中の斜線近辺に分布して、新旧両表現形で容認度にあまり差がない。場面 8, 13, 4 は、有意差なしの例でもあり、従来の*-seyo*と変わらない容認度を得ており、病院・美容室や放送関係などの場面では*-silgeyo*の使用がかなり浸透していることがわかった。今回の調査は、有意差がないという場面そのものが、従来の*-seyo*並みの容認度を得ていることの証という意味になる。場面 8, 13, 4 については、それらが新しい行為指示表現*-silgeyo*のプロトタイプとも言えるだろう。なお、場面 1 は*-seyo*でも*-silgeyo*でも容認度が低く、外れ値のようなものであると考えられる。

以上を考察すると、新しい二人称的行為指示表現*-silgeyo*は、サービス業的文脈において顧客的立場の相手に動作や行為をさせようとする際のフェイス侵害に対する一種の補償として、相手の意思によって動作や行為がなされるかのように、敬語付きの丁寧な意思形で表されるものであることが示唆された。

本研究の結果は、現代韓国語の敬語に、「聞き手」に重点を置く観点(「聞き手意識」(滝浦, 2020))からの変化が生じていることを示唆している。現代韓国語の敬語待遇表現は聞き手を意識しながらそれぞれの場面にふさわしい距離を図っている過渡期であり、これからも語用論的な機能が強くなっていくものと考えられる。

<引用文献>

- Jung, Inkyung. 2019. The Shift in Honorifics in Contemporary Korean: A Focused Study of the Subject Honorific “-si-”, 16th International Pragmatics Conference.
- 滝浦真人. 2020. 「ポライトネスの原理・原則」と日本語ベネファクティブの敬意漸減」加藤重広・滝浦真人(編)『日本語語用論フォーラム3』75-104. ひつじ書房.
- 丁仁京. 2013. 「韓国語の事物尊称について」『言語と文明』11. 55-71.
- 丁仁京. 2016. 「韓国語の先語末語尾‘-시(si)-’の対者敬語化－日本語との比較－」『福岡大学人文論叢』48-2. 561-592.
- 丁仁京. 2019. 「韓国語の行為指示表現に関する考察－‘-실게요’を中心に－」『第70回朝鮮学会大会』

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計50件（うち査読付論文 30件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 丁仁京, 滝浦真人, 林炫情, 玉岡賀津雄	4. 巻 26
2. 論文標題 韓国語の行為指示における新しい敬意表現 -silgeyoの容認度の検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 語用論学会第26回大会発表論文集（印刷中）	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tingting Xiao, Masato Takiura	4. 巻 8-3
2. 論文標題 A new trend in Chinese address and its theoretical implications : An argument from observations of bifocal strategies in recent chat commerce	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 East Asian Pragmatics	6. 最初と最後の頁 383-413
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka, Katsuo	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 5 - The time course of SOV and OSV sentence processing in Japanese	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 In Masatoshi Koizumi (Ed.) Issues in Japanese Psycholinguistics from Comparative Perspective	6. 最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka, Katsuo, Hiromu Sakai, Yayoi Miyaoka, Hajime Ono, Michiko Fukuda, Yu Xin Wu & Rinus Verdonchot	4. 巻 18-4
2. 論文標題 Sentential inference bridging between lexical/grammatical knowledge and text comprehension among native Chinese speakers learning Japanese	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李依格, 張佩霞, 玉岡賀津雄	4. 巻 23-2
2. 論文標題 話し言葉における動詞の否定でいい形「～ません」「～ないです」を選択する言語外的要因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語文法	6. 最初と最後の頁 87-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張ハイカ, 玉岡賀津雄, 王蕾	4. 巻 31
2. 論文標題 「破壊」に関連した多義和語動詞の意味拡張パターン 語彙能力の上位・中位・下位文の中国人日本語学習者と日本語母語話者の比較	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 小出記念日本語教育学会論文集	6. 最初と最後の頁 9-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林炫情	4. 巻 1
2. 論文標題 多文化共生社会の教育課題解決のための官学地域連携 PBL - 外国人児童生徒のための オンライン日本語指導「てご (tego)project」 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 2023産学協育人材育成韓日国際カンファレンス『地域革新中心の大学支援体制 (RISE) 地域定住人材養成のための大学教育革新』	6. 最初と最後の頁 287-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丁仁京	4. 巻 54
2. 論文標題 長崎県長崎市の観光施設における多言語対応の現状 - 韓国語対応の課題を中心に -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福岡大学人文論叢	6. 最初と最後の頁 1045-1071
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo, Sakai Hiromu, Miyaoka Yayoi, Ono Hajime, Fukuda Michiko, Wu Yuxin, Verdonschot Rinus G.	4. 巻 18
2. 論文標題 Sentential inference bridging between lexical/grammatical knowledge and text comprehension among native Chinese speakers learning Japanese	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0284331	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉岡賀津雄	4. 巻 21
2. 論文標題 大学を退職した心理言語学者が中国語を勉強して思ったこと	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国語教育	6. 最初と最後の頁 17-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo, Zhang Jingyi, Koizumi Masatoshi, Verdonschot Rinus G	4. 巻 -
2. 論文標題 Phonological encoding in Tongan: An experimental investigation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Quarterly Journal of Experimental Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/17470218221138770	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo, Ji Yuanyuan	4. 巻 79
2. 論文標題 Facilitation of processing <i>darenimo</i> ‘any/everyone’ negative Japanese sentences using prosodic entrainment	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Phonetica	6. 最初と最後の頁 45 ~ 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/phon-2022-2016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo, Ito Takane, Mansbridge Michael P.	4. 巻 51
2. 論文標題 Parallelism Between Sentence Structure and Nominal Phrases in Japanese: Evidence from Scrambled Instrumental and Locative Adverbial Phrases	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Psycholinguistic Research	6. 最初と最後の頁 501 ~ 519
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10936-022-09843-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo, Zhang Jingyi	4. 巻 12
2. 論文標題 The Effect of Chinese Proficiency on Determining Temporal Adverb Position by Native Japanese Speakers Learning Chinese	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.783366	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Verdonschot Rinus G, Hoang Thi Lan Phuong, Tamaoka Katsuo	4. 巻 75
2. 論文標題 Phonological encoding in Vietnamese: An experimental investigation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Quarterly Journal of Experimental Psychology	6. 最初と最後の頁 1355 ~ 1366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/17470218211053244	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 玉岡賀津雄	4. 巻 25
2. 論文標題 日本語学習者の記憶メカニズムと心的辞書の構造	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第二言語としての日本語の習得研究	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝浦真人	4. 巻 41(3)
2. 論文標題 日本語の敬語と語用論 敬語の語用論はタメ語の語用論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tetsuharu Koyama, Jun Sawada, Kaoru Hayano, Sachiko Takagi, Noriko Onodera, Masato Takiura, Hiroaki Tanaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Indigenous pragmatic research on Japanese	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 In Xinren Chen and Doreen Dongying Wu (eds.) East Asian Pragmatics: Commonalities and Variations	6. 最初と最後の頁 40-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masato Takiura	4. 巻 -
2. 論文標題 ntersection of traditional Japanese honorific theories and Western politeness theories	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 In Yoshiyuki Asahi, Mayumi Usami, Fumio Inoue (Eds.) Handbook of Japanese Sociolinguistics	6. 最初と最後の頁 327-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝浦真人	4. 巻 -
2. 論文標題 すり減る敬意と日本語の現在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ (特集・現代語の世界)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝浦真人	4. 巻 45
2. 論文標題 語用論から見た日本語の姿 知らずに使っている言葉の癖を知りたい	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 AJALT	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤信浩、林炫情、浅尾仁彦、李在鎬、須賀井義教	4. 巻 260
2. 論文標題 kReadabilityによる韓国語検定試験の読解文章難易度比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 朝鮮学報	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丁仁京	4. 巻 21-2
2. 論文標題 韓国語の行為指示表現 ' -silgeyo ' に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡大学研究部論集A：人文科学編	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松崎真日・丁仁京・安藤純子・趙賢眞	4. 巻 21
2. 論文標題 『韓国語学習の「おやつ」-10分で知る韓国の社会と文化-』制作報告 - 制作背景・校正・使用法を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡大学研究部論集A：人文科学編	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅尾仁彦・林炫情・李在鎬・須賀井義教・斉藤信浩	4. 巻 16
2. 論文標題 韓国語文章リーダビリティ判定システム「kReadability」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮語教育 理論と実践	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 椎名美智・滝浦真人	4. 巻 1
2. 論文標題 薄幸のベネファクティブ『てさしあげる』のストーリー 敬意漸減と敬意のナルシズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝編『動的語用論の構築へ向けて』開拓社	6. 最初と最後の頁 204-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝浦真人	4. 巻 40-2
2. 論文標題 『国語に関する世論調査』に見る敬語意識 言葉と行為のはざまに見えるもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 48-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝浦真人	4. 巻 1
2. 論文標題 なぜいま敬語は『5分類』になったのか? 日本人の敬語意識に起こっていること	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近藤泰弘・澤田淳編『敬語の文法と語用論』開拓社	6. 最初と最後の頁 59-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masato Takiura	4. 巻 23
2. 論文標題 [Presidential Lecture] A View of the Development of Im/Politeness Theories from an East Asian Language with Honorification	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 語用論研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝浦真人	4. 巻 1
2. 論文標題 東アジアの敬語論 - 語用論的対照研究へ向かって -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 趙 華敏 編 『日語語用学研究』北京：外語教学研究出版社	6. 最初と最後の頁 129-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masato Takiura	4. 巻 1
2. 論文標題 Intersection of traditional Japanese honorific theories and Western politeness theories	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Yoshiyuki Asahi, Mayumi Usami, Fumio Inoue (Eds.) Handbook of Japanese Sociolinguistics. De Gruyter Mouton.	6. 最初と最後の頁 327-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張セイイ・王蕾・玉岡賀津雄	4. 巻 35
2. 論文標題 中国人日本語学習者による動作の一時的および重複性を示すオノマトペの理解	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ことばの科学	6. 最初と最後の頁 87-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張セイイ・玉岡賀津雄	4. 巻 35
2. 論文標題 初中級レベルの中国語文法能力テストの開発 日本人中国語学習者のデータによる評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ことばの科学	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo, Zhang Jingyi	4. 巻 12
2. 論文標題 The Effect of Chinese Proficiency on Determining Temporal Adverb Position by Native Japanese Speakers Learning Chinese	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.783366	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo, Ito Takane, Mansbridge Michael P.	4. 巻 1
2. 論文標題 Parallelism Between Sentence Structure and Nominal Phrases in Japanese: Evidence from Scrambled Instrumental and Locative Adverbial Phrases	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Psycholinguistic Research	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10936-022-09843-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamaoka Katsuo Yuanyuan Ji	4. 巻 79
2. 論文標題 Prosody and polarity entrainment strategy for processing Japanese darenimo 'anyone/someone'.ntences using prosodic entrainment	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Phonetica	6. 最初と最後の頁 45-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/phon-2022-2016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林炫情, 李在鎬	4. 巻 6
2. 論文標題 リーダビリティ研究がもたらす新しい第二言語教育について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 WIAS Discussion Paper(早稲田大学高等研究所ディスカッションペーパー)	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張セイイ, 玉岡賀津雄, 勝川裕子	4. 巻 18
2. 論文標題 日本人中国語学習者によるポーズと重音のプロソディ理解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国語教育	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李口, 玉岡賀津雄	4. 巻 11
2. 論文標題 中国人日本語学習者による間接発話理解の速さと正確さへの影響要因	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国語話者のための日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 44-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤信浩, 玉岡賀津雄	4. 巻 19
2. 論文標題 理由を表さない日本語のカラ節の理解	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Language Sciences	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34609/sls.19.0_35	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝浦真人	4. 巻 5
2. 論文標題 この地でポライトネスを考えることの意味を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Human Linguistics Review	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田原由美子, 丁仁京, 滝浦真人	4. 巻 88
2. 論文標題 問いかげのコミュニケーション機能に関する日韓対照研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文化學報 (韓国)	6. 最初と最後の頁 273-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21481/jbunka..88.202102.273	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林炫情, 玉岡賀津雄	4. 巻 14
2. 論文標題 日本語学習経験が韓国人日本語学習者の社会的迷惑行為に対する認知と注意行動に及ぼす影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山口県立大学学術情報 [大学院論集 通巻第22号]	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅尾仁彦, 林炫情, 李在鎬, 須賀井義教, 斎藤信浩	4. 巻 16
2. 論文標題 韓国語文章リーダビリティ判定システム「kReadability」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮語教育 理論と実践	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yu, Shaoyun Tamaoka, Kastuo	4. 巻 1(2)
2. 論文標題 Trade-off effect in the processing of Korean case-drop sentences: An eye tracking investigation.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Human Behaviour and Brain	6. 最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito, N., Tamaoka, K., Michael, M. P.	4. 巻 10(1-2)
2. 論文標題 A Picture-Book Based Corpus Study on the Acquisition of wh-words in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glottology: International Journal of Theoretical Linguistics	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akita, K., Zhang, J., Tamaoka, K.	4. 巻 2
2. 論文標題 Systematic Side of Sound Symbolism: The Case of Suffixed Ideophones in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KLS (Kansai Linguistic Society)	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 丁仁京, 滝浦真人, 林炫情, 玉岡賀津雄
2. 発表標題 韓国語の行為指示における新しい敬意表現 -si lgeyoの容認度の検討
3. 学会等名 日本語用論学会第26回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 滝浦真人, 肖ティンティン
2. 発表標題 チャット・コマースに見る“遠近両用”戦略と東アジアの語用論 中国語の対人距離感にいま起こっていること
3. 学会等名 日本語用論学会第26回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 滝浦真人
2. 発表標題 書く「目的」と「スタイル」の話
3. 学会等名 国立国会図書館 調査局 研修講義（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青柳達也, 張允ひゃん, 金武雅美, 丁仁京
2. 発表標題 多言語演劇の手法による多文化理解を軸とした言語学習カリキュラム開発研究
3. 学会等名 グローバル人材育成教育学会第10回全国大会
4. 発表年 2023年～2024年

1. 発表者名 木下瞳, 林炫情
2. 発表標題 韓国語読解発展学習におけるkReadabilityの活用可能性
3. 学会等名 第93回 朝鮮語教育学会ワークショップ企画 授業に役立つ小ネタ交換会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 林炫情
2. 発表標題 行為要求表現における丁寧度の変化 - 否定や疑問などの言語特性は 日本語の行為要求表現の丁寧度を上げる要因なのか -
3. 学会等名 玉岡賀津雄教授『決定木分析による言語研究』（くろしお出版）出版記念講演シリーズ3（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 林炫情
2. 発表標題 多文化共生社会の教育課題解決のための官学地域連携 PBL - 外国人児童生徒のための オンライン日本語指導 「てご (tego)project」 -
3. 学会等名 2023産学協力人材育成韓日国際カンファレンス『地域革新中心の大学支援体制 (RISE) 地域定住人材養成のための大学教育革新』（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 滝浦真人
2. 発表標題 学士課程教育における日本語リテラシーを考える
3. 学会等名 東北大学高度教養教育・学生支援機構 教育関係共同利用拠点提供プログラム PDセミナー講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丁仁京,・滝浦真人・林炫情・玉岡賀津雄
2. 発表標題 韓国語における新奇なモノ敬語の容認性に与える要因の考察
3. 学会等名 日本言語学会第162回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 須賀井義教・丁仁京・李淑炫・吳ヨンミン・南潤珍・朴鍾厚・長谷川由起子・松崎真日・山下誠
2. 発表標題 2020年度韓国語教育実情調査結果報告（速報）
3. 学会等名 朝鮮語教育学会第87回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 丁仁京
2. 発表標題 長崎県の観光施設における韓国語対応の現状と課題
3. 学会等名 朝鮮語教育学会第89回例会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 林炫情
2. 発表標題 Demonstration評価方法を用いた韓国語授業のデザイン
3. 学会等名 朝鮮語教育学会第87回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斉藤信浩・林炫情・李在鎬・浅尾仁彦・須賀井義教
2. 発表標題 kReadabilityを用いた韓国語検定試験の読解文章難易度比較
3. 学会等名 朝鮮語教育学会第88回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 玉岡賀津雄・林炫情・趙コウ熙・張セイイ
2. 発表標題 韓国人日本語学習者の漢字に対する意識が漢字習得に及ぼす影響
3. 学会等名 第59回国際学術大会兼第9回韓国日本研究総連合会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Katsuo Tamaoka, Jingyi Zhang, Yuko Otsuka, Masatoshi Koizumi
2. 発表標題 Derivation of VOS in Tongan: An Experimental Investigation
3. 学会等名 Architectures and Mechanisms for Language Processing (AMLaP 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tamaoka Katsuo, Yu Shaoyun, Zhang Jingyi, Koizumi Masatoshi
2. 発表標題 Observing the topicalization effect in Tongan sentence processing
3. 学会等名 The 35th Annual Conference on Human Sentence Processing (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 玉岡賀津雄・張セイイ
2. 発表標題 文中における時間詞の位置に関する日中対照研究－日中の母語話者と日本人中国語学習者の調査より－
3. 学会等名 2022年「日本語文化研究」学術研究会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 玉岡賀津雄
2. 発表標題 決定木分析による日本語習得の研究法
3. 学会等名 2021年度第3回小出記念日本語教育学会ワークショップ
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 玉岡賀津雄
2. 発表標題 オノマトペは外国人日本語学習者にも習得されやすい語彙なのか？
3. 学会等名 電子情報通信学会「思考と言語研究会」（招待講演）
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Masato Takiura
2. 発表標題 A View of the Development of Im/Politeness Theories from an East Asian Language with Honorification
3. 学会等名 Keynote speech at 17th China Pragmatics Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝浦真人
2. 発表標題 近現代日本語における授受表現と敬語の語用論 聞き手意識による変容を捉える (シンポジウム「語用論的方言学への招待」)
3. 学会等名 青木博史・加藤重広・森勇太・滝浦真人・吉田永弘『語用論と日本語研究』日本語学会2021年度秋季大会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝浦真人
2. 発表標題 [ディスカッション] 多層的な日本語の語用論と東アジアの語用論
3. 学会等名 小林隆・中西太郎・津田智史・椎名涉子『語用論的方言学への招待』日本語用論学会第24回大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝浦真人
2. 発表標題 語用論から見た日本語の性格
3. 学会等名 国際日本語普及協会（AJALT）研修会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李淑炫，吳ヨンミン，小島大輝，須賀井義教，丁仁京，南潤珍，朴鍾厚，長谷川由起子，松崎真日，山下誠
2. 発表標題 韓国語教育実情調査報告 中間報告
3. 学会等名 朝鮮語教育学会第84回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林炫情，李在鎬，淺尾仁彦，須賀井義教，齊藤信浩
2. 発表標題 韓国語リーダビリティを活用した 韓国語文章難易度判別システム「kReadability」の開発
3. 学会等名 朝鮮語教育学会第84回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 志田原由美子, 丁仁京, 滝浦真人
2. 発表標題 問いかげのコミュニケーション機能に関する日韓対照研究
3. 学会等名 韓国日本文化学会第58回国際学術大会(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李淑炫, 吳ヨンミン, 須賀井義教, 丁仁京, 南潤珍, 朴鍾厚, 長谷川由起子, 松崎真日, 山下誠
2. 発表標題 韓国語教育実情調査2020中間報告
3. 学会等名 朝鮮語教育学会第85回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝浦真人
2. 発表標題 [会長就任講演] 日本語にイン/ポライトネス研究が必要なわけ “異議申し立て” としての イン/ポライトネス研究に事寄せて
3. 学会等名 日本語用論学会大会(2020年度年次大会)(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 金庚芬, 丁仁京	4. 発行年 2024年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 154
3. 書名 チンチャ! チョアヘヨ!! 韓国語 2	

1. 著者名 滝浦真人, 椎名美智	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 イン/ポライトネス からまる善意と悪意	

1. 著者名 玉岡賀津雄	4. 発行年 2023年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 290
3. 書名 決定木分析による言語研究	

1. 著者名 林炫情, 丁仁京	4. 発行年 2023年
2. 出版社 博英社	5. 総ページ数 92
3. 書名 イラストで覚える韓国語 慣用表現	

1. 著者名 林炫情, 丁仁京	4. 発行年 2023年
2. 出版社 博英社	5. 総ページ数 92
3. 書名 イラストで覚える韓国語 ことわざ	

1. 著者名 林炫情, 丁仁京	4. 発行年 2023年
2. 出版社 博英社	5. 総ページ数 74
3. 書名 イラストで覚える韓国語 四字熟語	

1. 著者名 椎名 美智, 滝浦 真人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 332
3. 書名 「させていただく」大研究	

1. 著者名 金庚芬, 丁仁京	4. 発行年 2023年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 139
3. 書名 チンチャ! チョアヘヨ!! 韓国語1	

1. 著者名 丁仁京, 金庚芬	4. 発行年 2023年
2. 出版社 博英社	5. 総ページ数 238
3. 書名 ソウルに会える韓国語会話 アンニョン、ソウル!	

1. 著者名 林炫情、丁仁京、崔文姬、木下瞳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 博英社	5. 総ページ数 183
3. 書名 総合韓国語中級発展テキスト 韓国を語る	

1. 著者名 丁 仁京	4. 発行年 2021年
2. 出版社 博英社	5. 総ページ数 238
3. 書名 現代韓国語の形式名詞「geos」に関する研究	

1. 著者名 滝浦 真人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 280
3. 書名 日本語アカデミックライティング〔改訂版〕	

1. 著者名 滝浦 真人・野崎 歓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 320
3. 書名 異文化との出会い	

1. 著者名 金龍, 林炫情, 金楷吟, 李恩晶	4. 発行年 2020年
2. 出版社 延辺大学出版社(中国)	5. 総ページ数 211
3. 書名 プレゼンテーションと討論で学ぶ総合韓国語	

1. 著者名 松崎真日, 丁仁京, 安藤純子, 趙賢眞	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 100
3. 書名 韓国語学習のおやつ 10分で知る韓国の社会と文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林 ひょん情 (LIM HYUNJUNG) (30412290)	山口県立大学・国際文化学部・教授 (25502)	
研究分担者	玉岡 賀津雄 (TAMAOKA KATSUO) (70227263)	名古屋大学・人文学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	滝浦 真人 (TAKIURA MASATO) (90248998)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			